

地域医療構想の推進に向けた公立・公的病院の役割の再検証について

1 再検証の要請について

厚生労働省は、令和元年9月26日、急性期の病床を有する公立・公的医療機関等のうちから再編・統合について再検証の要請対象となる医療機関を選定、医療機関名を公表。

令和2年1月17日、厚生労働省医政局長から、再検証の要請通知を发出。

再検証要請対象となる医療機関には、県から再検証の要請通知を发出。

2 国の分析内容について

厚生労働省は、全国の急性期病床を有する公立・公的医療機関について、急性期医療に関する9項目^{*}を分析し、次のA、Bのいずれかに該当する医療機関を選定した。

^{*}9項目：がん、心疾患、脳卒中、救急、小児、周産期、災害、へき地、研修・派遣（Bの分析は下線の6項目）

A 診療実績が特に少ない。

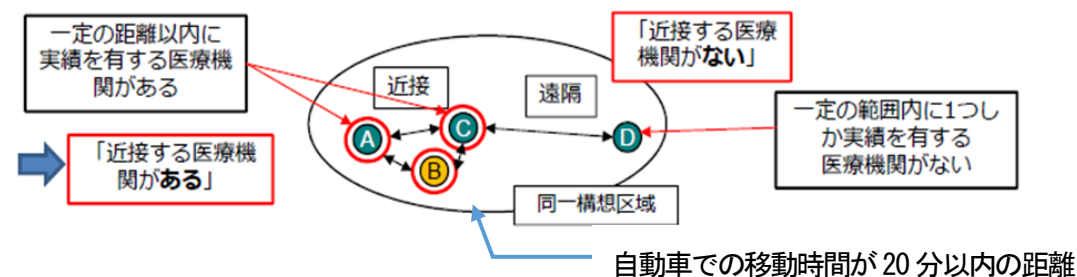
（人口規模に近い構想区域の全ての公立・公的医療機関等の診療実績を比較し、各グループの中で診療実績が下位33.3パーセント値未満）

B 類似の診療実績を有する医療機関が2つ以上あり、お互いの所在地が近接。

<類似の考え方>



<近接の考え方>



3 再検証要請対象医療機関一覧と協議状況

本県の再検証要請対象医療機関は、下表のとおり9医療機関である。

<参考 県内9病院における再検証の検討状況>

(令和2年8月28日現在)

	構想区域	医療機関名	協議状況
1	名古屋・尾張中部	中日病院	・急性期病床42床を、回復期病床に転換
2	名古屋・尾張中部	国立病院機構 東名古屋病院	・2018年に408床から330床に削減したことをもって、既に対応済であることを地域の関係者で確認 ・神経難病、重症心身障害児者、結核等の患者の受け皿としての病院の特性を確認
3	名古屋・尾張中部	ブラザー記念病院	・2018年に急性期30床を廃止済であることを地域の関係者で確認
4	海部	津島市民病院	・病院全体で440床を352床にダウンサイジング
5	海部	あま市民病院	・休棟45床を、回復期病床として再開
6	尾張西部	一宮市立 木曽川市民病院	・急性期病床90床を82床にダウンサイジングし回復期病床に転換
7	尾張北部	医療療育総合センター 中央病院	・2018年に110床から89床に削減したことをもって、既に対応済であることを地域の関係者で確認 ・障害者医療に特化している特性を確認
8	西三河北部	みよし市民病院	・急性期病床68床を、急性期病床34床及び回復期病床34床に転換
9	西三河南部西	碧南市民病院	・一定数以上の救急車受入実績を有する5病院（安城更生病院、刈谷豊田総合病院、碧南市民病院、西尾市民病院、八千代病院）で連携協定を締結 ・今後、人事交流や情報共有、機能分化について協議

4 再検証の期限について

再検証の期限は、原則、令和2年3月まで、再編統合を伴う場合は9月までとされていたが、「経済財政運営と改革の基本方針2020（令和2年7月17日閣議決定）」では、「感染症への対応の視点も含めて、質が高く効率的で持続可能な医療提供体制の整備を進めるため、可能な限り早期に工程の具体化を図る」とされた。